

<総括>

出題数	現代文2題・古文1題・漢文1題	試験時間	90分
-----	-----------------	------	-----

現代文の(一)は、昨年度より読みやすい文章だったと言えるだろう。(二)は、身体を論じた文章であったが、平易な文章であり解きやすい設問も多かった昨年度の(二)と比べると、読みづらかっただろう。(二)に解きづらい設問が多く、全体としての難易度は昨年度並みと言えるだろう。

<本文分析>

大問番号	(一)	(二)
出典 (作者)	戸谷洋志・百木漠『漂泊のアーレント 戦場のヨナス ふたりの二〇世紀 ふたつの旅路』「第7章 考察 アーレントとヨナスの比較 20xx 自然・対話・想像力——アーレントとヨナスにおけるテクノロジーの問題 2 終わりなき進歩と自然性」(慶應義塾大学出版会 2020年刊)	田中彰吾『自己と他者 身体性のパースペクティブから』「序章 2 身体という広がり」(東京大学出版会・2022年刊)
頻出度合 ・的中等	入試では時々出題される筆者である。	入試ではほとんど出題されない筆者である。
分量 前年比較	分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 約4100字。昨年より約400字減。	分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 約3700字。昨年より約300字増。
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)	難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
(一)	科学技術論	問一	マーク	やや易	傍線部の内容説明問題。傍線部直前の一文と、第一段落の「無限」に「自己増殖」という内容と結びつけて解答する。
		問二	マーク	やや易	指示語の問題。傍線部直前の2行の内容を根拠として解答する。
		問三	マーク	難	空欄補充問題。空欄の後の文脈との整合性に欠けるが、空欄の前とのつながりからホを選ぶ。
		問四	マーク	標準	傍線部の理由説明問題。傍線部の後の4行の内容を根拠として解答する。
		問五	マーク	標準	傍線部の語句がとりあげられている理由を説明する問題。傍線部前後の文脈、特に傍線部の1行後と、傍線部の後のアーレントの引用文の2行目以下の部分に着目する。
		問六	マーク	標準	空欄補充問題。空欄の2行後の内容を根拠として解答する。
		問七	マーク	やや難	傍線部の内容説明問題。イと紛らわしいが、傍線部の前の3行と、傍線部の後のヨナスの引用文の内容をもとに考える。
		問八	マーク	やや難	傍線部の理由説明問題。紛らわしい選択肢が多いが、ロは選択肢の後半部分が本文に書かれていない。

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	
(二)	身体論	問九	マーク	やや易	漢字の選択問題。ちなみに、イとニの「カン」は同じ「看」である。	
		問十	マーク	やや易	漢字の選択問題。 (I) 傍線部の内容説明問題。傍線部の「主観的に経験される世界を神経表象に還元しようとする見方」＝「神経構成主義」について書かれた、第5段落冒頭などを根拠に解答する。	
		問十一	マーク	標準		
					難	(II) 傍線部の理由説明問題。抽象的な選択肢と具体的な選択肢が混在しているが、早稲田大学が正解として発表した解答は、傍線部の1行後の内容などと齟齬がある。
		問十二	マーク	難	傍線部に関する内容説明問題。早稲田大学が正解として発表した解答は、傍線部の2の前後で、対比的に書かれている内容と対応しているとは言えない。	
		問十三	マーク	難	傍線部の理由説明問題。理由がきちんと説明された選択肢がなく、早稲田大学が正解としたものも、傍線部とほぼ同内容であり、傍線部の理由とは言えない。	
		問十四	マーク	やや難	傍線部に関する内容説明問題。設問の意図がわかりにくい上に、イとハが非常に紛らわしい。	
		問十五	マーク	やや難	傍線部の内容説明問題。正解が選びづらいが、傍線部や本文と最も齟齬の少ないものを解答とする。	
		問十六	マーク	やや難	趣旨を答える問題。紛らわしい選択肢が多いが、傍線部傍線部3の4行後や本文最終部分を根拠に解答する。	

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

様々なジャンルの文章にふれ、読解の演習を積み重ねておくこと。長い選択肢や解答の決まりにくい設問も出題される可能性があるため、できるだけ多く問題演習を重ねて行こう。漢字・語彙などの知識も身につけておきたい。

# 国語 (古文)

早稲田大学 教育学部 4/5

## <総括>

出題数	現代文2題・古文1題・漢文1題	試験時間	90分
-----	-----------------	------	-----

古文は、基本的な知識・読解力を広く問う出題であった。

## <本文分析>

大問番号	(三)
出典 (作者)	『平家物語』
頻出度合 ・的中等	頻出出典。この箇所の出題は稀。
分量 前年比較	分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 約920字。昨年より約310字減。
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

## <大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	
(三)	軍記物語	問十七				
		A	マーク	標準	語の空欄補充 (空欄に入る形容詞を選ぶ)。	
		B	マーク	易	語の空欄補充 (空欄に入る形容詞を選ぶ)。	
		問十八				
		a	マーク	やや易	敬意の対象 (謙譲語「奉る」)。	
		b	マーク	やや易	敬意の対象 (謙譲語「奉る」)。	
		c	マーク	易	敬意の対象 (謙譲語「奉る」)。	
		問十九	マーク	やや易	語句の内容説明。	
		問二十	マーク	やや易	文の解釈 (「心をおく」の意味がポイント)。	
		問二十一				
		3	マーク	やや難	主語判定。	
		4	マーク	標準	主語判定。	
		問二十二	マーク	やや易	語句の内容説明。	
		問二十三	マーク	標準	語の内容把握 (和歌の中の「風」が何をさすかを選ぶ)。	
		問二十四	マーク			
(I)		標準	和歌の内容把握。			
(II)		やや難	和歌の解釈 (「や」が反語であることに注意)。			
問二十五	マーク	やや難	文学史 (鎌倉時代に成立した軍記物語を選ぶ)。			

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## <学習対策>

単語・文法・常識など、古文の基本事項を習得した上で、文章を正確に読み解く力を養成しておこう。和歌や文学史の学習も怠らないこと。

# 国語 (漢文)

早稲田大学 教育学部 5/5

## <総括>

出題数	現代文2題・古文1題・漢文1題	試験時間	90分
-----	-----------------	------	-----

昨年度に続き、今年度も漢文が完全に独立した問題として出題された。昨年度は筆者の意見を表出する随筆が出題されたが、今年度はストーリー性のある読みやすい志怪小説からの出題であった。設問数は昨年度6題であったが、今年度は7題になった。記述式の設問は昨年度と同様今年度も出題されなかった。また、例年出題される返り点の設問は、今年度は出題されなかった。五箇所の傍線部がすべて白文であった。

## <本文分析>

大問番号	(四)
出典 (作者)	洪邁『夷堅志』(夷堅甲志卷十五)
頻出度合 ・的中等	頻出出典であるが、この箇所は稀
分量 前年比較	分量 <b>減少</b> ・やや減少・変化なし・やや増加・増加 137字。昨年より107字減。
難易 前年比較	難易 <b>易化</b> ・やや易化・変化なし・やや難化・難化

## <大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)
(四)	志怪	問二十六	マーク	易	解釈。傍線部の前文と後文を踏まえて解答する。
		問二十七	マーク	易	空欄補充。「皆」と「独」の対比を捉える。
		問二十八	マーク	易	解釈。文脈から「異」の意味を考える。
		問二十九	マーク	易	解釈。傍線部までの内容を踏まえて解答する。
		問三十	マーク	やや易	句形。「為」に注目し、文脈から傍線部が受身だと判断する。「為A所～」の形が問われている。
		問三十一	マーク	やや易	書き下し文。「無～也」「為」の用法に注意。イ・ロ「しりてために」では意味が通らないことを捉える。
		問三十二	マーク	易	趣旨判定。特に6～7行目の内容をしっかり把握する。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## <学習対策>

漢文に関しては、今年度は独立した問題として出題されたが、古漢融合あるいは現漢融合問題として出題されることもあるので、いずれの形式であっても対応できるようにしたい。重要語や故事成語、基本句形の学習を怠らず、それらを踏まえた上での確実な読解力を身につけることが望ましい。漢詩もしばしば出題されるので、十分な対策をしておくこと。また、構造に注意したうえで白文の学習をする必要がある。